

## 国立高等専門学校(商船学科)5校と内航船社の 情報交換会を開催

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース(TF)」を設置し、優秀な日本人船員(海技者)確保のための広報活動を行っているが、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて対応を進めている。

この度、内航WGが中心となって、商船学科を有する国立高等専門学校5校(商船系5高専)と、当協会会員の内航船社が互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を東京で開催した。



情報交換会の様子



主催者挨拶の小田副会長(TF座長)

2010年以降、日本船主協会は、海技教育機構傘下の各校と当協会内航船社の情報交換会を例年開催してきたが、高専の学生で内航海運を志願する者が増えている状況に鑑み、高専側からの要請を受け、内航各社との一層の関係強化を図るべく2012年度より商船系5高専との情報交換会を開催しており、今回で4回目となる。

2月5日、当協会会議室で開催した情報交換会には、富山高専(商船学科)、鳥羽・広島・大島・弓削各商船高専の教員計6名と、当協会会員内航船社20社から30名が参加。会合では、まず高専各校から学生の在籍状況や乗船実習の時期、進路志望傾向と実際の進路状況等の説明があり、続いて内航船社から各社の事業概要や船員規模が紹介された。

その後、高専側から予め寄せられた、「内航船社における5高専卒業者のキャリアパス」や「新人船員採用にあたって重視する資質」、「女性の採用について」等の質問について各社から情報や考えが示された。

内航船社側からは「学校訪問の時期」や「学生が船会社に対しどういった情報を要望しているか」、「インターンシップ実施状況」等について質問があり、各校より情報が示された。

最後に双方の説明を踏まえた質疑応答等が行われ、将来の内航海運業界を支える優秀な新人船員の養成に向け、引き続き連携強化に取り組む必要性を確認して終了した。

日本船主協会では、来年度以降もこの情報交換会を継続して開催していく。



5高専を代表して挨拶する広島商船高専の小林教授